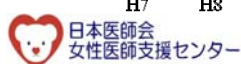
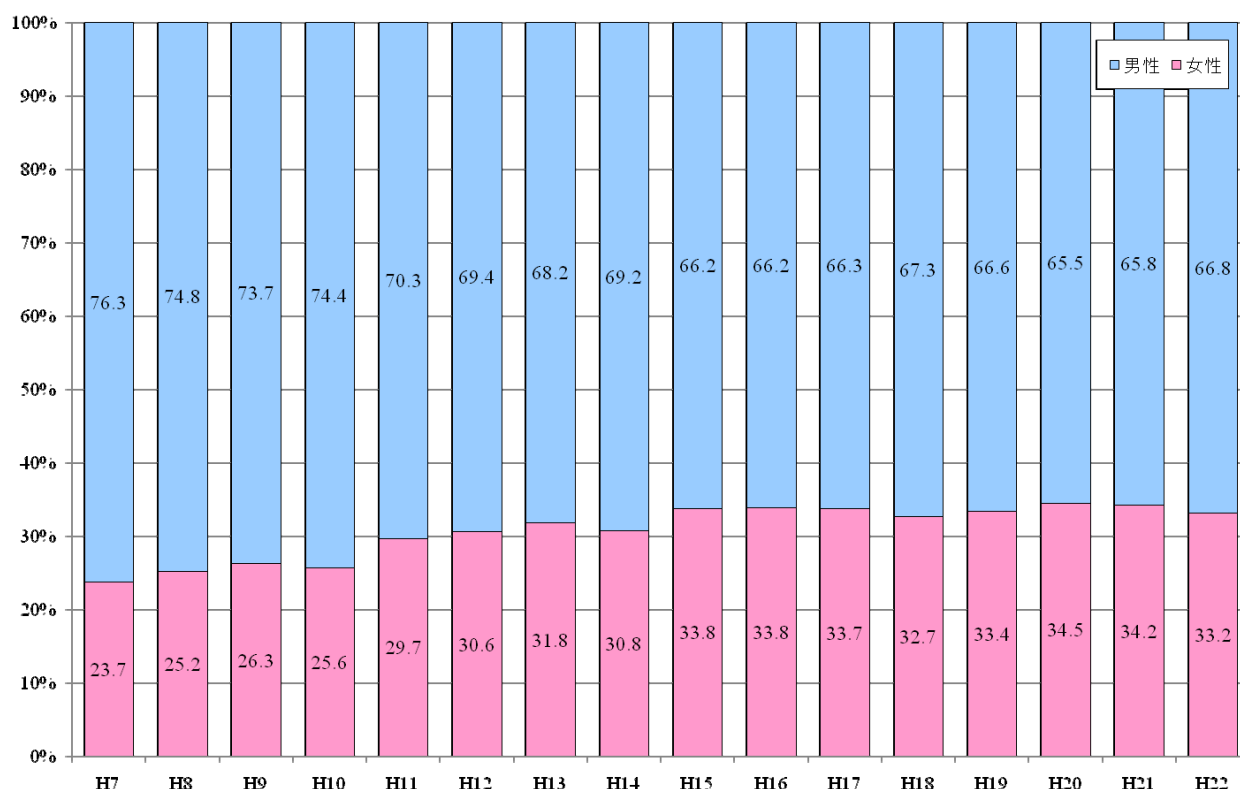


# 医学部教育の中で男女共同参画や ワークライフバランスについての 教育が求められる

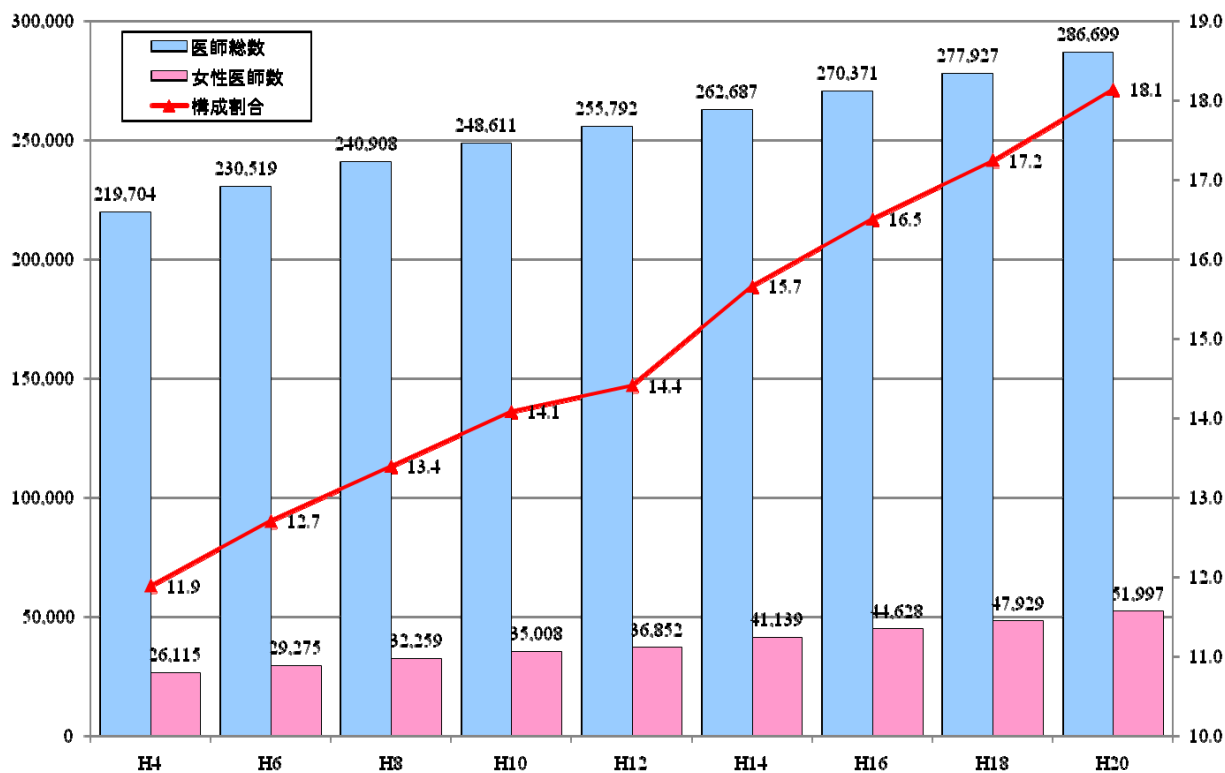
日本医師会常任理事 保坂シゲリ



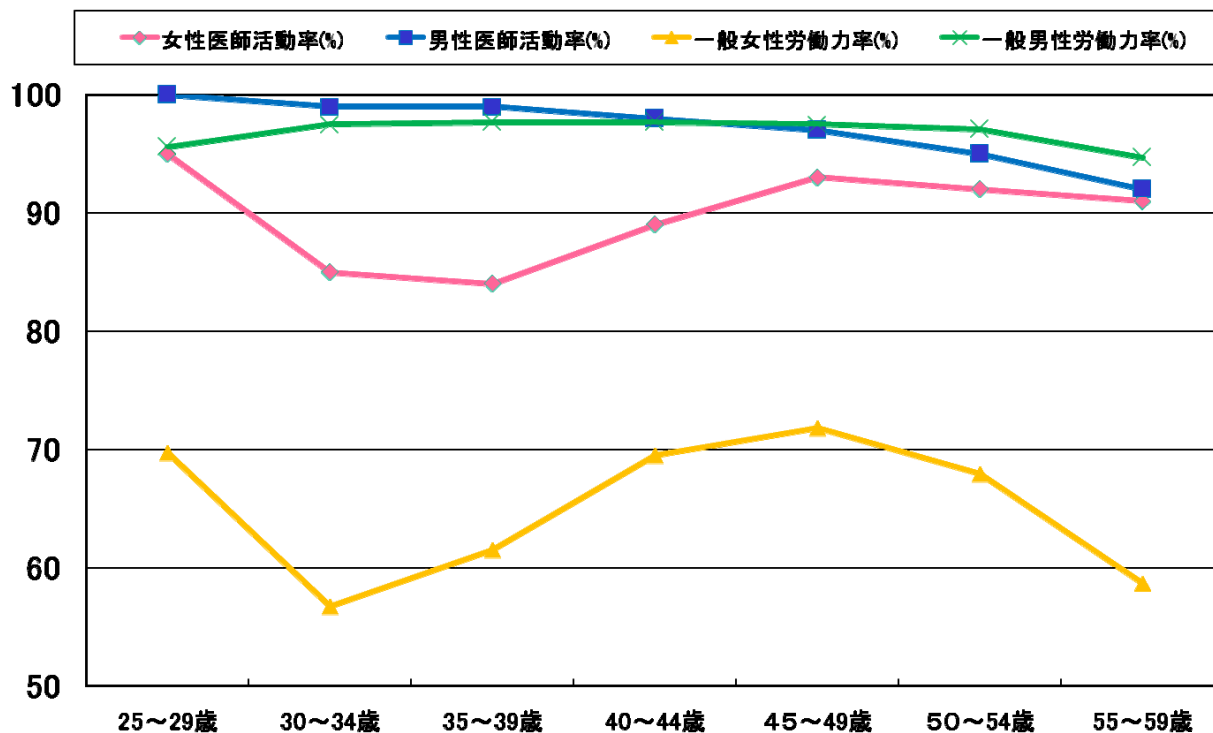
## 医師国家試験合格者の男女比



## 女性医師数の推移



## 女性医師の活動率





厚生労働省委託事業「医師再就業支援事業」受託

平成19年1月

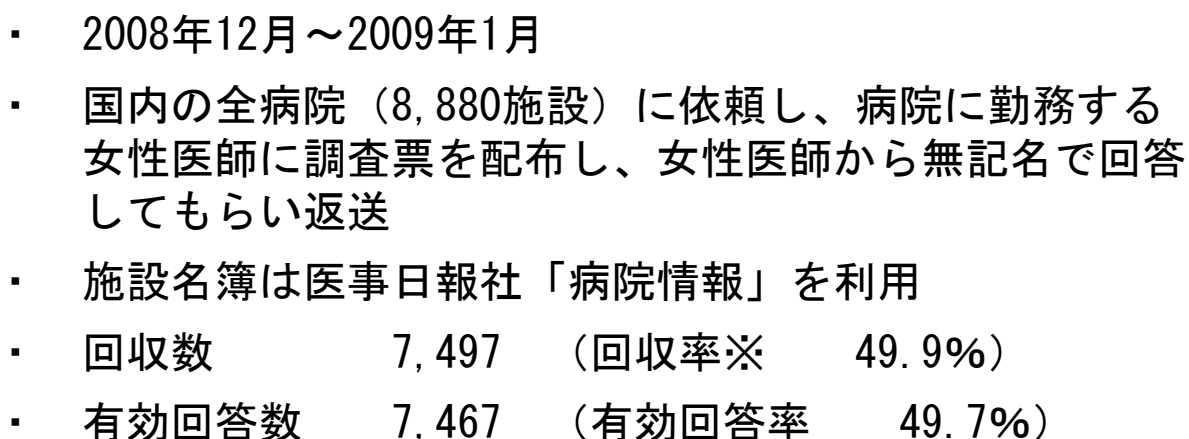
## 日本医師会女性医師バンク開設 バンク以外の事業も開始

平成21年4月

厚生労働省事業名が「女性医師支援センター事業」に変更したことに伴い、「日本医師会女性医師支援センター」に名称変更



# 女性医師の勤務環境の現況に関する調査



※回収率は、病院より連絡のあった配布数の合計15,010から算出した



## 調査結果から見た事

1. 実働勤務時間、宿日直回数、休日日数などから多くの女性勤務医師が過酷な勤務環境にいる。
2. 勤務医全体の勤務環境が厳しいことや医師の勤務・労働に関して、法についての十分な理解が無いこととともに、若い女性医師には、非正規雇用の立場の人が多くあり、出産・育児について、法の保護を十分に受けられていない。
3. 育児・家事について配偶者の協力は、配偶者が医師である場合には、非医師である場合より得られる割合が低い。
4. 多くの女性医師が求めているのは医師全体の勤務環境の改善であり、そのための医療への財政投入(それによる医師不足の解消)、勤務医の身分の確立である。
5. 多くの女性医師は出産・育児を経ても働き続けられる環境の整備、又、一時休業せざるを得なかった場合の復帰支援を求めている。
6. 出産・育児についての支援策として、24時間・病児保育を併設した院内保育所の普及の他、様々な保育サービス利用に対する補助、及び学童保育の充実を求めている。
7. 多くの女性医師は意志決定に関わる立場・指導的立場に女性が少ないことに問題を感じ、男性中心の医療界の意識改革を希望している。

## 基本的に必要なこと



- 医師全体の勤務環境の改善
- 医療への適正な投資
- 指導的立場、意志決定機関への女性の参画

## 具体的に必要なこと それぞれに対する取り組み

1. 病院管理者や病院長への啓発
2. 法律の整備など
3. 若い女性医師、女子学生への働きかけ  
キャリアモデルの提示等
4. 就業継続支援
5. 再研修支援
6. 出産・育児支援

## 女性医師の配偶者の家事・育児への協力の評価

(「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」より)

クロス集計 図1 配偶者の家事・育児への協力の評価-配偶者の職業別

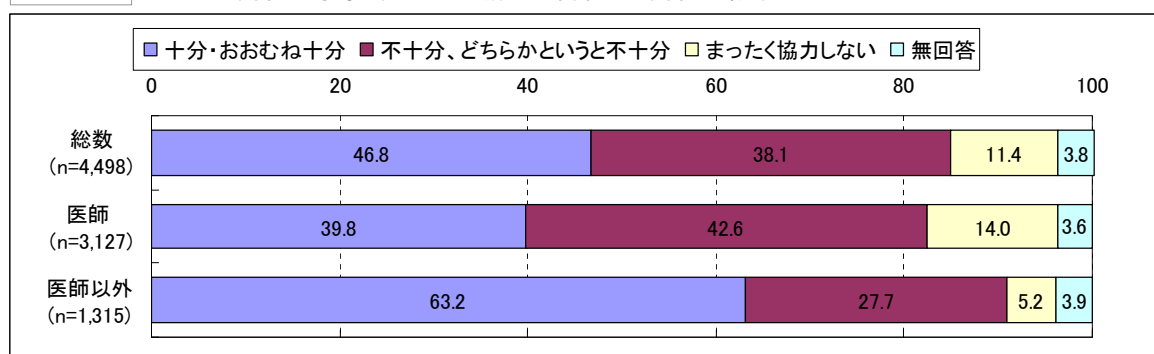


図2-1 配偶者の家事・育児への協力の評価-年齢別×配偶者の職業別(1)

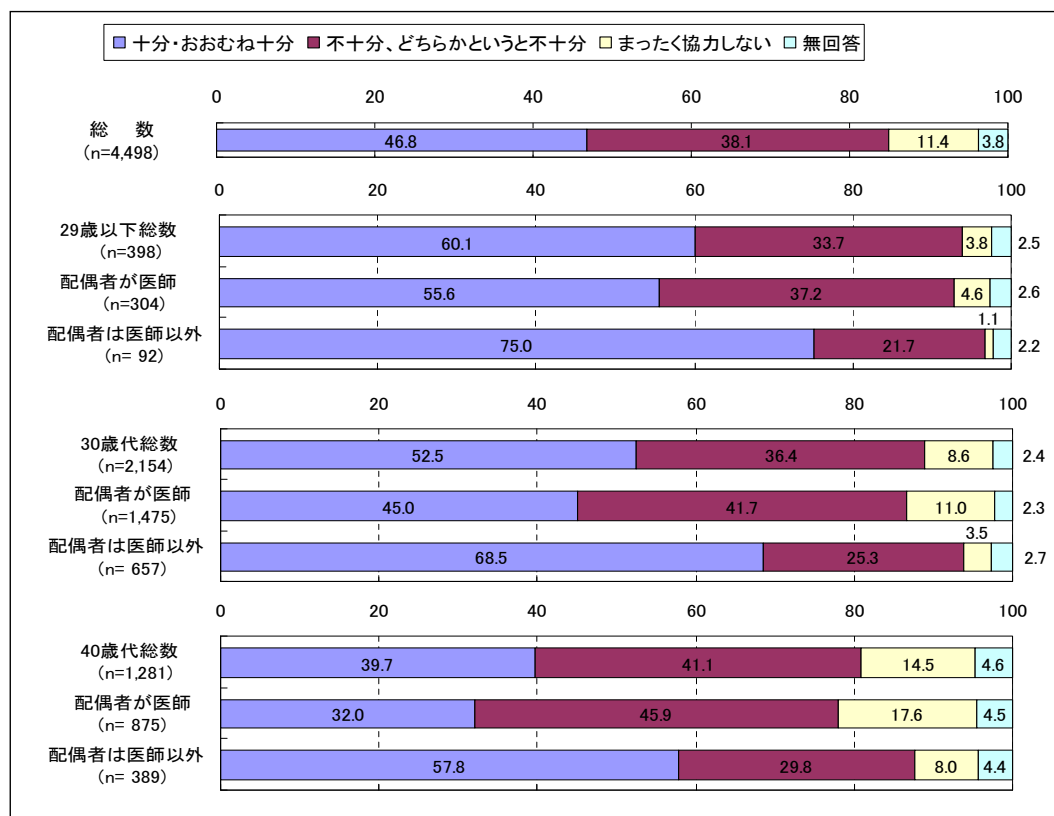


図2-2 配偶者の家事・育児への協力の評価-年齢別×配偶者の職業別(2)

